

平成28年度

第 1 回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録
(平成28年7月 第一回)

- 1 日 付 平成28年 7 月 2 日 (土)
- 2 場 所 海老名市立上星小学校
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 平井 照江 教育委員 岡部 二九雄
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎

教育総務課長 吉川 浩 教育総務課総務係長 佐藤 哲也

教育総務課主事 魚谷 尚子 教育総務課主事 神福 壽子
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項
(1) 児童生徒及び教職員の生活時間について
(2) 保護者の経済的負担のあり方について
(3) その他
(今泉中学校区での身近な話題などについて)
- 7 閉会時刻 午前11時50分

○教育部長 皆様、おはようございます。ただいまから平成28年度第1回海老名市総合教育会議を開会いたします。私、進行を務めます教育部長の岡田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日の進行につきましては、お手元にお配りしております次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、市長及び教育長からご挨拶を申し上げます。

それでは内野市長、お願いいたします。

○内野市長 おはようございます。平成27年度は6回、海老名市役所で行いました。私も、総合教育会議が去年の4月から始まって、土日開催にしています。多くの傍聴人の方に聞いていただきたいと思いますし、あるいは時間があれば傍聴の方にも発言を求めていますと思っています。

後ほどこの総合教育会議の意義については事務局から説明がありますが、2年目になりますが、各学校に行こうという形になりました。こう見ていますと、私もいろいろな学校へ行っているのですが、いつも思うことは、この体育館が何でこんなに汚いのかなと思うのですが、これは地震のときには大丈夫ですね。これは診断をしているのですが、やはりこの壁をどうしようとか、この窓ガラスはどうしようとか、冷暖房を入れようと考えたと、冷暖房を入れると1校数千万円かかります。だから、では、ちょっとしたエアコンの大きいものを6台ぐらい入れたらという話をしておりますが、なかなか冷えないと聞いています。冷えなくても多少はいいのではないかという話がありまして、いろいろな関係で、公共施設のうち、学校が6割程度を占めますので、この10月か11月に公共施設再配置計画ということで、これからの施設を今後、いわゆる20年後、30年後をどうしていくかという計画をつくろうとしています。そういった面で、それを踏まえながら改修計画をつくっていかうという形になっています。

昔は体育館はどれもこのパターンでした。これを改修すると、どうやっていくかで1校1校設計がかかわってしまいます。昔の窓がありましたが、今は体育館には窓がないのですね。ほとんどポイントポイントにあって、照明設備や空調がある。窓があることによって空調が効かないということがありますので、そういった面でいろいろ考えていかなければならない。

そして学校はどうしても、体育館と言うと、卒業式、入学式で、ここにステージをつくれます。私はこれは無駄だと言っているのです。こういうものをつくらなければいいとは

言っていません。今はボタン式でいけば、せり出してくるような形になっています。皆さん、ビナレッジに行かれるとわかると思いますが、ボタンでステージができたり、椅子も稼働式なのですが、そうすると効果的に広く使えます。

考えてみると、学校の施設は意外と無駄が多いのですが、これだけのスペースの土地があるわけですね。この土地を換算すると、ここは市街化区域の上星小学校ですから、この土地を買うと物すごいお金がかかります。そういった土地に建っているということを考えると、こういったところをもっともっとみんなで活用することが今後の公共施設のあり方だと思っています。

ステージを使いたい場合はステージができる、ステージが必要ない場合は広く使う、そういった時代になってきているのだなとつくづく思っていますので、事務局の方、頭を回転させながら、有効に考えてください。

一応、今、開会の挨拶になったかわかりませんが、こちらでいろいろ話をしますので、聞いていただいて、後ほど時間があれば、傍聴者には何かご意見があれば求めたいと思いますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

以上であります。

○教育部長 ありがとうございます。それでは続きまして伊藤教育長、お願いいたします。

○伊藤教育長 おはようございます。多くの方が集まっていただき、嬉しく思っています。会場が上星小学校ということで、私は教育委員会に四十何歳で来て、十何年間いたのですが、最後はこの上星小学校の2年間でした。今でも最後の退任式で、5年生の男の子が僕に花束をくれて、その子の顔もよく覚えています。だから、こうやって来ると、学校はやはりいいなと、私はただただ思います。ただ、先ほど言ったのですが、市長さんとの体育館を見たら、ああ、これは本当に随分剥がれているなと、少しそういう思いがした次第でございます。

今回、学校を会場として使うに当たり、上星小の笠原校長先生、どうもいろいろありがとうございました。こういう会場で、本当にすごくいい感じだなと私自身思っています。そこで私たちの話し合いのところを皆さんのほうでいろいろ聞いていただいて、意見をいただけるとありがたいかなと思っています。

私は、上星小学校なら上星小学校、今泉小学校なら今泉小学校、今泉中学校なら今泉中学校、それぞれが海老名市立ではあるのですが、独立してほしいなと、実は少し考えてい

て、そういう意味でおらが学校、要するに地域の人たちが自分たちの学校を自分たちで運営していただきたいと思います。もちろん経費などは市が出すものですが、どんな学校にするか、どのように使うかは学校で考えてもらいたいと思います。

もちろん先生たちは教員でプロですから、教育課程で、何年生で何の教科をどう教えるかを1年間計画を立てるのですが、学校全体を地域の学校としてどういう学校にしていくかを、地域の人たちが本当に学校に入っていて、それを一緒に考えるような、海老名市立の19校が全部そうなるとうれしいなと思っています。

いざというときに、何のときもそうですが、いろいろな震災などを経験すると、我々が忘れていた、やはり地域のきずなが全てなのだなとわかるのです。そのように東日本で言われて、熊本でもまた言われて、でも時間が過ぎると忘れていくのですが、それを忘れないためには、例えば上星小学校なら上星小学校を拠点にして、常に地域の人とそこで活動している。だから、何かあってもすぐにこの体育館に集まったら、みんなでこの地域をどうしようとか、そういう学校を拠点とした、おらが学校・地域づくりを目指していますので、またそういう点でも、市長さんの発案ですが、いろいろな学校を回することは、ことし1年、とても有意義なこと、意義があることだなと思っていますので、また上星小学校、今泉小学校、今泉中学校のご支援のほうもよろしく願いまして、本日の話し合いの中で何かありましたらお出しいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○教育部長 ありがとうございます。

次に、次第の3.総合教育会議と教育大綱についてでございます。まず、事務局でございます教育部次長の金指から概要をご説明いたします。

○教育部次長 それでは、総合教育会議と大綱についてご説明をさせていただきます。

まず、1.総合教育会議でございますが、先ほど冒頭で市長からもお話がございましたが、昨年の4月に施行されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正ということで新たに設置されたものでございます。

具体的な内容は資料に書いてございますが、総合教育会議は、市長と教育委員会が、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設けられた協議・調整の場であるということです。よって、これもお話がありましたが、会議は市長が招集した上で、原則、公開の場で、議論、協議をしていくというものでございます。

また、具体的なその協議・調整事項については3点規定されてございます。1点目が、これも後ほどご説明します①教育行政の大綱の策定、②が教育の条件整備など重点的に講

すべき施策、重要な施策ということです。それから③児童・生徒等の生命・身体 の保護等緊急の場合に講ずべき措置、いじめとか、さまざまなことが言われていますが、そういったものが議題になってくるということでございます。

また、開催回数については先ほどご説明のとおり、今年度については中学校区6校区で6回ほど実施していきたいと考えてございます。

続いて2. 教育大綱でございます。教育大綱はこれを読み上げさせていただきます。「市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的施策についての目標や施策の根本となる方針」で、これは市長が定めるものでございますが、まさに教育に関する基本的な方針を定めたものということでございます。そして、その策定については、この総合教育会議において市長と教育委員会が協議調整した上で策定しております。

これも先ほど市長からありましたが、海老名市ではこれを全国に先駆けて、恐らくですが、4月初めに行いましたので、全国で一番最初に大綱を策定したところでございます。

次に、具体的に海老名の大綱とはどんなものなのかを簡単に説明します。本日お配りした資料の後ろのほうにカラー版で大綱のイメージ図を添付しました。A4判の縦です。それをご覧いただきながらお話を聞いていただければと思います。

まず(1)目標です。「『しあわせをはぐくむ教育』のまち海老名」が海老名市の大綱の目標になります。

具体的にどういう取り組みをしていくかですが、まず1つが「子どもと大人がともに成長する社会」を築いていこう、それから「子どもたちの今と将来のしあわせのための教育」を行っていこう、3点目として「家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくり」をしていこう、これらがリンクしながら、お互いに関連し合いながら、取り組んでいくことで目標を達成していこうと規定しています。

具体的な施策として3つの柱を設定させていただきました。①「えびなっ子」しあわせプランの推進。これは先ほど教育長からコミュニティスクールの話もございましたが、実際の教育行政を進めていく上での具体的なアクションプランがこの「えびなっ子」しあわせプランでございます。これを推進していこうと考えます。

それから、②子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実を図っていこう。最後に③安全安心な環境と新たな学校施設への取組を行っていこうということでございます。

その他の詳細については、今のイメージ図にも記載してございますので、ご覧になっていただければと思います。

説明は以上でございます。

○**教育部長** それでは、引き続き協議に入りたいと思います。案件については、次第に記載しておりますとおり3件となっております。

それでは、ここからの進行は、本会議の議長、内野市長にお願いいたします。

○**内野市長** 傍聴の方、おわかりいただけましたか。ざっと見て、今までは首長、市長が教育委員会に意見を言うことはできませんでした。しかし、昨年の法律によってできるようになりました。しかし、教育は政治的中立でないといけない。市長は、ある程度口出ししますが、皆さんが不安になることは、行政側の首長が教育に物を申すということは、政治的介入ではないかとよく言われます。これがいつも問題になっています。

私はこの教育総合会議をつくるときにお話しをしたことは、首長の教育に対する口出しは、意見としては言いますが、介入はしないということを約束しています。これは、その首長さんによって違うと思います。ある首長さんは日の丸・君が代を絶対やれとか、こういう道徳をもっと入れろとか、そういった話を押し切る首長さんもうらっしゃると思いますが、私は教育長といろいろ相談して、子どもたちにとってどうなるかという考え方の中で意見調整をしていきたいという形で昨年から動いていますので、政治的中立は守っていきたいと思っています。それが私の考え方ですから、後ほど何かお聞きになりたいことがあったら手を挙げてお願いしたいと思います。

それでは始めたいと思います。教育委員の皆さん、よろしいですか。

○**内野市長** それでは、協議事項(1)児童生徒及び教職員の生活時間についてを議題としたいと思います。子どもたちが一日の生活の実態がどうなのか、あるいは先生方が、よく忙しい、忙しいという話を聞きますが、実態がどうなのかということを、その辺を事務局で調査していただきました。それをもとに、今後、海老名の児童・生徒の生活のパターンや教員の生活パターンを踏まえながら、教育活動や教育の指導にどうやって生かしていくか、その一つの糧としていただきたいと思います。それでは、調査について事務局から説明をお願いします。

○**教育部次長** それでは、説明させていただきたいと思います。生活時間の調査ということですが、今回この議題で協議をしていただくに当たりまして、事務局で調査を実施しました。まず概略を説明します。

まず①目的ですが、児童・生徒及び教職員の一週間の生活時間の実態を把握するために

今回実施をしたということです。

それから②実施方法は、まず児童・生徒と教職員と分けて調査をしています。児童・生徒については、市内小中学校の各2校、小学校2校、中学校2校、計4校を選んだ上で、小学校3年生と6年生の児童から各1名ずつ、それから中学校1年生と3年生の生徒から各1名ずつ抽出させていただいて、調査にご協力いただきました。

また、教職員につきましても、やはり市内の小中学校2校を抽出させていただきまして、初任者、新任の先生、それから10年以上の経験を持っておられる先生、それぞれ合計4名に調査をかけてございます。

③実施期間としては6月20日（月）から26日（日）ということで、まさに1週間調査をさせていただきました。④回収率は100%でございます。

子どもたちについては小学校と中学校でそれぞれ4名ですが、全部資料に記載できませんので、代表的なものをピックアップしてございます。小学生について、これは小学校3年生の例でございます。

資料をご覧になっていただきますと、緑色が学校に行っている時間ですね。それから赤色が習い事もしくは学習塾、ピンク色が家庭学習、それから青色が遊びの時間を示しています。

これらを先ほどのサンプル全体を見たときに、どんな傾向があるかを少し整理したいと思います。まず習い事・学習塾については、おおむね平日は2時間程度、休日についても1時間から2時間、当然子どもたちによって若干異なりますが、そういう傾向があるということです。

それから家庭学習については、平日は2時間から3時間、休日は2時間から8時間、これはかなり幅があるのですが、一部6年生で、恐らく受験か何かを意識されているのだと思いますが、学習塾と家庭の勉強がかなり多い方も見られました。

それから遊びは、平日1時間から2時間、休日は2時間から4時間。また傾向としては、昼間戻ってきてすぐに、学校から帰ってくると、家庭学習が入ることから、外での遊びが少ないという印象でした。

睡眠については、どのお子さんも9時間程度の睡眠をとっていらっしゃるということです。

続いて中学校です。資料には中学校の1年生の調査のモデルを記載しています。先ほどの小学校に加え、中学生の場合、部活動が入ってまいりますので黄色で示してござい

す。各曜日に黄色が入っているのがわかると思います。

傾向を見ると、習い事・学習塾は平日は1時間から2時間、休日は5時間から6時間となっています。家庭学習については、平日、休日ともに1時間程度、家庭学習については減っているようですが、一方で、学習塾の時間が増えているというような傾向があります。部活動に、平日は3時間から4時間、休日は5時間から6時間、時間を費やしていることがわかります。

睡眠は平日で7時間、休日でも8時間から9時間というような状況でございました。

引き続きまして教員でございます。資料には小学校の教諭で、10年以上の経験の方のモデルを記載しています。これは小学校ですが、緑色で学校と表示しているのは、通常の授業だけではなくて校内研究、先生方が行うさまざまな研究、また、職員会議などの会議等々が含まれています。

赤色は教材研究を示し、これは先生方が授業を進めるに当たって、事前にどのように子どもたちに授業を進めていくかということを研究する時間でございます。

青色で余暇時間を示しています。

小学校の教諭の傾向としては、学校としては、平日は8時間から9時間勤務しており、休日の出勤はございませんでした。一方、教材研究については平日でも4時間から6時間されています。また、休日にも2時間から4時間程度、ご自宅で教材研究をされているというようなことがわかりました。

余暇については、平日は2時間程度、休日は9時間から11時間程度休暇時間がとれているということでございます。

続いて中学校の教諭です。これも10年以上の経験の方ですが、先ほどの生徒たちと同じように、中学校になりますと部活動がありますので、それを黄色で示しています。

傾向でございますが、学校は平日9時間から10時間勤務、休日も2時間から5時間程度勤務されています。

教材研究については、平日4時間程度、休日は1時間程度、余暇は、平日は1時間、休日も1時間から4時間程度となっています。

部活動が平日2時間から3時間ですね。休日は、ご覧いただけるように4時間から10時間ぐらい部活動に充てられることがわかります。

そしてご覧になっていただくと、月曜日から日曜日まで全て出勤されているということがこれでわかると思います。

以上の説明をまとめますと、まず小学校の児童については、休日を含む週3～5日間程度、習い事、これは例えばミニバスケットだとか少年野球とかサッカーなども含みますが、それから学習塾があって非常に忙しい生活を送っています。また、毎日家庭学習はするものの、遊ぶ時間が総じて少ないという傾向があります。

また、中学校の生徒ですが、家庭学習は減るものの、休日を含む1週間5日間程度学習塾に行っているという状況でした。また、平日及び休日に部活動があり、1週間通じて休みがないというような状況でございます。

次に、先生ですが、小学校の教諭です。先ほども説明しましたが、授業、校内研究、会議等の学校に加えて、教材研究に係る時間がとても多くて、1日で平均9時間から12時間程度、いわゆる労働を行っているということで非常に多忙であると言えます。また、原則、休日出勤はないので、余暇の確保はできているけれども、やはり休みの日にも先生方は教材研究を行っているという様子が見てうかがえました。

また、中学校です。中学校については、小学校と同じように学校に教材研究、さらにはここに部活動が加わっていますので、平日で13時間、休日でも7時間から15時間勤務をされるということで、先ほども申し上げましたが、一切休みがないという状況なので、非常に多忙であることがわかっております。そのために教材研究であるとか余暇の時間の確保が困難になっているという状況でございました。

以上、調査結果でございます。ご議論いただければと思います。

○内野市長 今、子どもたちの関係と先生方の生活の状況がありました。まず、子どもたちの生活の時間を見て、教育委員さんのご感想というか意見をお願い申し上げたいと思っています。

○海野委員 最初にこのリサーチを見て、感想を言わせていただきます。最初に小学校3年生のものを見させていただいたのですが、小学校と言うと、やはり家庭での教育方針がおありになると思うのですよね。3年生になりますと2年生と違って、やはりどうしても宿題がとて多くなると思います。ですので、学校から帰ってから、どうしても宿題とか家庭学習に時間がとられるかなと思います。習い事はそのご家庭の方針によって、学習塾、習い事はそれぞれおやりになると思いますが、睡眠がもう少しあったほうがいいかなという感想を持ちました。

また、遊びと言っても、やはり学校から帰ってきてからの家庭での遊びというのは、今ご近所に遊びに行くというのもちょっと難しい時代かなというのもあるので、遊びは家庭

での遊びが多いかなと思います。土曜、日曜はお友達を通しての遊びもあるのではないかなと思いますので、この抽出されたお子さんは随分充実した生活を送っているかなという感想を持ちました。

また、中学生の時期というのは、学力とともに体力もつくる時期なので、どうしても部活動が中心になると思います。それで、このモデルでは部活動が（水）（木）（金）となっていますが、多分ほかのお子さんにしてみたら毎日朝練も来ているのではないかなと思います。中学校の場合は、結構、朝練が毎日のようにあり、学習塾も行かなくてはならないしということで、どうしても睡眠時間が少ないかなということがあります。今後少し考えていただきたいのは、朝練について、学校側での対応の仕方を考えていただければ、もう少し睡眠もとれるし、朝食もゆとりをもって取れるのではないかなという感想を持ちました。以上です。

○内野市長 ほかにはございますか。

○松樹委員 おはようございます。よろしくお願いいたします。この上星小学校、私もここは母校ですので、大変懐かしいというか、やはり来るとほっとするなという感じがしております。

今のご質問の中で、児童生徒の調査結果についてですが、私はこれを見たときに、自分が小学校時代、中学校時代とさほど変わりはないのかなという気は少ししているのですね。すみません、さほどというのは語弊があるかもしれませんが、家庭学習はそんなにしなかったのだというのは少しあるかもしれませんが、自分のときと比べてみても、下校時刻や習い事、学習塾、そして、部活動もさほど変わりはないのかなと思っております。

ただ、やはり見ると忙しいと感じます。私は自分が経験したからよいと言っているわけではなくて、忙しいというのが、本当に第1の感想でございます。特に中学生ですね。部活動をこんなにやらなければいけないのかと思いますし、小学校については、中学校も同じかもしれませんが、今度、道德教育が教科化されますので、全体のコマ数が増えるかと思うのです。また、英語教育も増えるようなことを文科省が言っておりますので、そうすると、さらにこの学校という部分がぐっと右側に寄り、小学生もそうだと思うのですが、小学校1年生、2年生、今は2年生で、今年は夏休みを少し少なくしたことで、6時間授業はなくなりましたが、またそのようなことも考えていかなければいけないのかなという気はしております。もう少しその辺は文科省も考えてくれたらと思うのですが、さらに今後忙しくなってくるのかなと思っております。以上です。

○岡部委員 これを見て、一見して中学生の部活動が黄色で示してあるので、よりインパクトがあり、目に飛び込んでくるのですが、本当に部活動はこんなにやっているのだなということを改めて思いました。特に（水）（木）（金）は朝もあるし、ぼうっと遊ぶ時間というか、ぼうっとしている時間がほとんどない。子どもの実態をあまり知らなくて申しわけなかったのですが、今の子どもは大変な時間を過ごしているということを改めて感じました。

小学校についても、特に月曜日から金曜日まで、もっと遊ぶ時間があるのかなと思っていたのですが、意外とないのだなと思いました。家族との団らんというのですかね、そういう時間は、この食事などの中でとっているのでしょうか。まあ、そうかなという感想です。それから調査ですが、今回行われたこの調査、抽出してやっているのですが、海老名では初めてなのかどうか、事務局にお尋ねしたいと思います。

○教育部次長 はい、こういった調査については今回初めてでございます。

○内野市長 よろしいですか。平井委員は現場の経験は小学校ですか。

○平井委員 はい、小学校です。小学校の児童の様子を見て、まず、子どもたちの下校の時間を見ると、6校時の日は非常に遅いですね。16時過ぎに子どもたちが帰ってきます。前にも申し上げたのですが、子どもたちは、一日学校は楽しかったのだらうなという思いはします。行きと帰りでは、朝は静かですが、帰りはすごくにぎやかです。それだけ学校生活が充実して、話したいことがいっぱいあるのだらうなと思うのですが、まあ、いい学校生活を送っているのだらうなという感じで下校の様子を見ています。

その中で、この調査の中で1つ気になることは、遊びの時間が毎日とってあるけれども、小学生のこの遊びの中身というのは一体何なののだらうなというところが1つ気になります。例えば30分足らずの遊びという中では、下校してから子どもたち同士では遊べていないのだらうな、ゲームをしているのだらうなと思い、子どもたちが家庭に帰ってから、子ども同士の遊びをどんなふうに行っているのかなというところが1つ気になります。遊びの時間は確かにありますが、この辺りは、今の子どもたちはどうなのかなというところが気になるところです。

それから、中学生の生活ですが、確かに黄色い部分が多く、部活が日々行われているのだなと思っています。子どもたちの生活は充実しているのかなというふうに思いますが、帰ってくる子どもの様子を見ると、毎日私は同じ女の子を見ているのですが、うなだれて、上を向いて帰ってくることは少ないですね。それだけ、何のクラブに入っているの

かわかりませんが、疲労があるのかなと思います。

1つ気になることは、食事の時間ですね。午前6時からというその時間は、（水）（木）（金）でとっていますが、中学のお昼の時間が、たしかそんなに早い時間ではなく、12時後半かと思うのです。そうすると、朝食を食べてから昼までの時間に、多分6時間前後ぐらいは経っているのかなと。子どもたちがこの朝食の時間からお昼までの間に部活を行い、子どもたちが体力的に維持できているのだろうか、少し1つ思うところがあります。

遊びの時間というのをとっているのも、その部分は土曜日にまとめて、子どもたち同士の関わりが持てているのではないかなとは思いますが、やはりなかなか、学習塾等に通って、日常の中で子どもがゆとりを持って生活ができているかという、少しそういう部分では窮屈な部分が、子どもたち、課せられているところはあるのかなという感想を持ちました。以上です。

○内野市長 今、小学生の遊びの中身の問題がありましたが、教育委員会では把握していないですか。教育委員会の先生の中では小学校もいらっしゃいますね。

○伊藤教育長 この調査では把握していないですけども、全国学力・学習状況調査をやっていますので、毎年毎年6年生のデータはわかります。その中では、やはりテレビゲームの時間が海老名では、他市、全国と比べても少し比率が高いということでした。全国の調査ですので、それを考えると、ビナレッジの状況ではないけれども、やはり子どもたちの多くはゲームをしていたり、それからテレビの何らかに関わることで遊んでいるということは容易に、データとしては出ているところでございます。

○内野市長 教育委員会の事務局のほうでは、補足はありますか。

○教育支援課主幹 小学校籍の指導主事をしております。小学校の場合、携帯電話やスマートフォンなどの普及、保有率が非常に上がっていますので、その使用率は確かに高くなっていると思います。また、それに伴って外遊びをする時間も減っていると認識しております。

○内野市長 あと、部活は、中学生は全員入らないといけないのですか。

○教育支援課長 全員入らなくてはいけないということはないのですが、平均すると大体85%ぐらいの子どもがいずれかの部活に入っているという状況です。

○内野市長 昨日の朝日新聞に部活の話が出ていたのは知っていますか。昨日の新聞を見返していただいて、今日コピーを持ってくればよかったのですが、部活そのものを問題視

しているコラムがあって、1ページ割いていました。保護者の立場と、町や市の教育委員会では、中学生は全部の生徒に部活に入れということで指示をする。部活に入らないと高校入試に不利になってしまう。だから、どこかの部活が辞めてしまうと、他の部活に入らないと高校入試に不利になるから入りなさいという指導をしているところも多くあると書いてありました。それは現実にあるみたいですよ。

○伊藤教育長 神奈川県では、ある程度の時期までは、部活の大会の結果で何位までに入ったらとか、それを競っていて、点数に入ったのですが、現在では部活の成績は全然関係ないです。ですから、部活に入らないと高校入試に不利だとか、そういうことは実際ありません。だから、今の神奈川県の県立高校の高校入試ではそれはありません。ただ、私立等では、例えばスポーツに力を入れていけば、その成績も加味して推薦入学とか、そういうことは今でもありますが、公立では、ありません。

○内野市長 本当にこれは難しいというか、今出た意見は、部活の朝練をやめたほうがいいということと、それから部活の時間が多いということ。また、小学生の場合の遊びは、ゲームやスマホが多いということ。綾瀬市では、もうスマホとかテレビゲームをやめましょうと、市でも教育委員会でもうたっていて、その部分はいいいのですが、部活の問題は、子どもたちは一生懸命やっているから、すごくシビアなのですよ。

資料を見ていると、私の孫もこの年代なのでわかるのですが、もったきついです。もう土日は朝6時ごろから、夕方6時ごろには帰って来られない。なぜかという、試合があると行くから、3試合も4試合もやるから、もったきつい生活をしています。

その部分では、文科省はゆとり教育から変わっていますから、部活の時間を今後どう持っていくかということで、シビアなのですが、その辺は教育長としてどうですか。

○伊藤教育長 実際、部活動の問題点は、どこの中学校といわず、海老名市内でもとても大きいです。1つ、子どもたちの活動で言うと、例えばその時期に子どもたちにそれだけの運動が本当に必要があるかという、実は少し過度なのかと思います。例えばその子どもたちがずっと続けるかという、運動は本来、大人になっても続けてほしいのだけれども、燃え尽き症候群のような感じになって、運動の楽しさ本来よりも、勝ち負けにこだわり過ぎて、運動を続けるということにつながらない場合もあります。

もう1つは、もっと大事で、大体はチームプレーが多いので、子どもたちはまだ未発達ですので、相手を認めたりすることができないので、そこから抜けて、やめてしまう子が出てくることが多いです。そうすると、今度は、その子どもたちがその時間をどう生きていく

かとか、生活するかということとはとても問題で、うまく部活に入れて、友達がそばにいて、やって、そこで過ごせる子はよいのですが、そうではない子が出てくる可能性があって、そうではない子は非常に厳しいかなと思います。

ただ、現状では、教職員のことも考えると、私は、県の中体連、中学校体育連盟が大会を組織するのですが、そういったところのレベルから、例えばもう時間を制限したり、または市なら市、県なら県の校長会や、県中学校校長会とか、そういうレベルである程度の指針を出す必要があるかなと思っています。

私は例えば海老名市で、海老名市の中学校の部活は、少なくとも朝練は週に2回だけにしてくださいと言ったら、子どもたちや熱心な保護者にすれば、そのために負けてしまうのではないかとといったようなことに発展しますので、それが同じ地域が同じレベルになっていれば、同じ条件になるのではないかなと思っています。

それから、これについては問題が大きいのですが、やはり送り出している保護者の方々において、部活動に対して意見が2つあるんですね。やり過ぎだから休ませろという保護者の方がいらっしやったり、いや、足らないから、うちの子は毎日行かせてやるといった意見があります。だから、先生が熱心でないと批判されるのですよ。

要するに、子どもたちにとって、土日2日間では体力的に難しいから、日曜日の午後は家に帰って、家でゆっくりさせましょうよという判断を先生がしたとすると、あの先生は部活を半日やらせないで、熱心ではないという批判が、直接私ども教育委員会にあたりもするのです。そういう状況がありますので、やはり、今子どもを送り出している保護者の方と十分に話し合って、部活動の意義は何ですか、子どもたちの何をそこで育てたいのですかということも含めて話し合って、一定のルールをと思います。

でも、市のレベルよりも、やはり全県のレベルでできると感じます。文科省も今少し動き出しているのですが、文部科学省のレベルでそのルールができると大きく変わっていくかなと、私は思っています。ただ、必要なら市としても考えたいと思っています。以上です。

○内野市長 中学校も今、部活がここで議論になっているのですが、私は思うのですが、中体連も高体連も、いろいろ話しているけれども、古くて進歩的じゃないから遅いのですよね。だから、できれば保護者と学校の先生で、部活動に対する海老名市の教育委員会としての議論をしてもらって、ある一定の指針を出さないと、話を聞いていると、今、部活動を中学校でやっていて、部活動を指導する先生はいるのですが、その部活動を統括して

いる人は誰なのか知りたい。

○伊藤教育長 部活動の統括は、ブロック委員長とかはあるのですが、結果的には中体連で、県の中体連の組織が統括しています。試合を組むのも全てそのような形です。

だから、そこに校長会の話は通しますが、校長会はそれには、中体連は中体連で独立してありましたので、校長会と話しながら大会等を進めているということです。

○内野市長 普通の体育の授業の指導は教科の指導になるのですか。

○伊藤教育長 それは学校です。

○内野市長 部活動は中体連がやっているのですか。

○伊藤教育長 基本的に部活動は、学校の授業の教育課程という学校の定めた時間外ですから、学校で行うべきことを定める学習指導要領の中では、とても関連性があるから、配慮して十分にやってくださいとはうたっているけれども、その時間数に入っていないんです。要するに教科外、課程外ですから。

○内野市長 課程外ですね。そうすると、ほかの部活は、文化部はどうですか。

○伊藤教育長 全て同じです。

○内野市長 今、中体連だから、ほとんどスポーツの関係になっているのだけれども、吹奏楽部は連盟があるけれども、ほかの部活もあるでしょう。

○教育支援課長 文化部等については、特にそういう中体連のような組織がないので、それぞれで行っている状態です。吹奏楽部などには大会がありますので、県央で会議があったり、そういう連携はありますが、ほかはそれぞれ単独でやっている状況です。

○内野市長 そうすると、文化部の活動と、スポーツ部、運動部の活動は基本的には全く別なのですね。資料中の部活動で書いてある生徒の中1というのは、これはスポーツ、運動部でしょう。

○教育部次長 運動部と思われますが、具体的なことを聞かせていただいていないので、そこまでは何とも言えません。

○内野市長 今、文化部で朝練をやっているところは合唱と吹奏楽部ですよね。学校の前を通ると、それしかないから。将棋部などのは朝からやっていないでしょう。そこら辺で、中体連はどんどん大会数を多くして、サッカー部とか、もっときついところがあります。野球部もきつい。そういった実態があるということはわかるけれども、教育長、これはある程度マニュアル、指針、考え方をつくるということはできるでしょう。

○伊藤教育長 方針、考え方はですね。だから、本当にこれについては保護者の方にさま

ざまな意見があるので、市教委がぼんと提示したら、混乱するのはわかるので、そこを十分に話し合っていくことが大事なと思います。

さきほど言ったように、かたや、もっとやれ、かたや、やり過ぎだという意見があり、もう完全に真っ二つとは言わないけれども、そこが折り合いがつかない状況で、結構そこで問題が生じていますので、きちんと話し合っていきたいと思います。

○内野市長 私の孫は中学校2年生で、小学校からずっとサッカーをやっていて、中学校に入ったらこういう話がありました。サッカー部に1年生が8名しかいない状況があり、中体連では1年生用の試合があるのですが。選手が11名必要だから、うちの学校は出られないじゃないですか。3名はどうするのかと先生に意見を言う親がいて、うちの子どもたちは出られないと言うのです。中体連では、ある中学校と別の中学校が合同で1年生の試合に出るようになっているそうなのですが、うちの子どもが出られないということでまず苦情を言われるそうです。

もう1つは、先生の経歴を聞く方がいる。先生は今サッカーのコーチをやっていますが、どこの小学校でサッカーをやっていたのですか、どこの中学校でサッカーをやっていたのですか、どこの高校でサッカーをやったのか、そして先生はどこの大学へ行ってやったのですかと、そこまで聞くそうです。

それを聞いていて、すごく大変だと感じました。そういった苦情は、教育委員会に来ますか。あるいは、部活動の先生が全部受けるわけですか。校長は受けないのですか。

○伊藤教育長 教育委員会に来る苦情は、学校に言っても聞いてくれないとか、まあ、ちょっと聞けるようなことを言っているわけではないから学校としては承服しないのでしょうか、学校に言っても変わらないから教育委員会に言いますというものが大体基本的な苦情です。

ですので、今市長さんがおっしゃった程度のご意見のほとんどは、その顧問の先生が全部受けて、ただ、余りにもひどいと、校長等に相談することあるけれども、全て顧問が受けていると思います。

○内野市長 まあ、次の項目、先生の生活時間になるのですが、どうでしょうか、まずこれは各中学校で、文化部やいろいろな関係で、部活の実態調査をしたほうがよいと思いますね。そして、やはりその部分で、試合とか、朝練の問題など、生徒の立場に立ったという形で、その保護者がどう思っているかも必要と思います。では、中学校の先生の部分は子どもの場合と全く同じなので、これについてのご意見はございませんか。先にこちらで

ある程度方向というか考え方をまとめていきたいと思います。中学校の調査結果について、内容は大体こんなものですか。

中学の先生でいた方、大体こういう感じですか。資料を見ると、中学校の先生は家族旅行なんて行けないですね。

○教育支援担当課長 私も運動部を持っていましたが、そうですね、まず妻の理解を得て、それでやっているところです。家族旅行へ行けないということはないですが、やはり子どもたちの大会とか、その大会に向けての練習を優先にしまうと、なかなか時間確保は難しいです。でも、やりくりをして家族旅行へ行けないということは決してなかったです。子どもたちと保護者がどう感じていたかわかりませんが、自分は自分なりにちょっと計画をして、僕は部活動をやっていたつもりなのですが、全く休みがとれないとか、旅行に行けないというようなことはなかったです。

○内野市長 これから夏休みに入りますが、うちの孫を見ていると、大体休みがお盆に入るのですよ。お盆から何日か休みなのですが、お盆のときに行くと、どこへ行っても人混みだから、その点は大変なのですが、大体試合というのは、中体連はお盆前に終わってしまうでしょう。

○教育支援担当課長 そうですね、お盆の時期は、私の競技は運動部でしたが、中体連に入っていなかったですが、大体学校で他の部活を見ても、お盆の時期は大会を外していました。

○内野市長 お盆にどこかへ行くと、行くところは高いし、人はいっぱいだし、そして、何とか先生方は、辛くはないのですか。

○伊藤教育長 辛いと思います。実を言うと、教員は、さきほど言った教育課程に給料が施されています。そのため、簡単に言うと、部活動の手当は給料分には入っていないのですよ。ただ、私が知っている限りでは、特別勤務手当ということで部活動の手当が出ますが、本当に何時間やっても1500円とか、それぐらいしかつかないのです。そういう中で、本当にボランティアとかいう形で部活動の指導をしている、普通に換算したらボランティア活動に近い状態でやっています。

我々の年代の先生たちはそれが普通だと思っているのですが、私が今非常に困っていることは、特に若い教員たちはそれが悪いということで、それは当然だと思うのですが、部活で苦しんでいられます。何で土曜日も日曜日もない、休暇もないような生活をしなければいけないのだということで、かなり苦しんでいられます。

それによって、教員を目指したのだけれども、その教員を諦めざるを得ないというような判断をなさる方も実際にいます。そう考えたときに、これが本当にそのようにやる必要があるかと思います。

そして、外部講師の方々も入れたりします。ただ、外部講師も、子どもたちへの対応ですから、いい人はいいいですが、結構難しいと言えは難しいのです。外部講師が入って、土日が休みになったり、学校も顧問を2人制にして、どちらかは休めるようにしたりとか、いろいろ工夫するのです。ただ、大会が近くなったりすると、そういうわけにもいかないし、先ほどの中体連の考え方で言うと、絶対に先生がついていかないと試合に出られないという条件もあったりしますので、そういう中で常についてなければいけないので、これからのことを考えると、やはり先生たちにとっては非常に厳しい状況を生んでいるかなということで、前に市長が、そんなに頑張るならお金を出そうかと言われたことがありましたが、本当にボランティアに近い活動を土日もやっているということですね。

○内野市長 部活動をやっていない先生は8時ごろから出勤して、15時ごろ帰ってしまうのでしょうか。

○伊藤教育長 それは語弊があります。教材研究がありますので、さきほど言った若い先生は初めて来たばかりですから、自分の授業の教材研究をかなりしなければいけません。経験が長くなれば、ある程度教材の教え方は大丈夫ですので、その時間はあります。ただ、部活動がなければ、部活動を持っている先生よりも負担が軽いことは確かです。

○内野市長 そうですね。まあ、そういう実態がありますので、まず、本当に難しい問題です。いい機会ですから、こういうメンバーで集まることはめったにないので、これに関して保護者の方はいらっしゃいますか、何かご意見はありますか。

○市民 保護者ではないのですが。朝の状況ですが、僕は6時ごろに起きるのですが、家の前は中学生の通学路になっているのですが、部活で6時にもう出かけているのですね。そして、資料の分析のデータでちょっと質問しようと思ったのですが、先生も生徒もそうですが、毎日このような状況なのですか。

やはり高度成長云々で、我々は働き過ぎてきたわけですが、それを考えると、この延長線が企業で労働オーバー、要するに企業でもいじめに遭うことはあるのです。上司が、何をやっているのだ、俺のときはこんな状態で当たり前よと言ってしまい、そうなると土日出勤は当たり前と、これにつながるということもあるので、こういう状態ということは、できるだけ朝練などはやめさせなければまずいのではないかとこのように感じます。

それから、先生にゆとりを持ってもらうということが必要だと思います。冷静な判断をするにも、やはりゆとりを持った形で生徒に接する時間がとれないと思うのですよ。

それからもう1つ、安心安全となると、やはり今言ったような安心した授業を生徒さんに向ける、それから生徒さんは、安心した、将来の目的を持って部活に入れる余裕ということのを心がけ、それから安全を考えると、これだけ詰めて、先生も目いっぱいやると、よく体育で問題が出たとか、いろいろあるではないですか。疲労が出てくることで危険度がある。そこで事故が起きる。

だから、ゆとりあるということは、勉強ではなくて、むしろこちらの部活に対して気分的なゆとり、それから肉体的な、時間的にも含めたゆとりをとってやらないと、日本の若者の成長は常に挫折になってしまいますよ。そうしないと、社会に出ても、こんな気分でやっていたら、僕も上の立場で会社などを見ていると、やはりおちこぼれの方もいるわけです。そういうことを振り返ってみると、やはり小さいころの様子は関連が出ています。まとめますが、できれば、朝練は廃止したいし、それから生徒も先生も、大会以外は、せめて日曜日は、お互いの時間がとれるような時間を検討してもらいたいということで、安心安全を目指した部活ということで改善してほしいということです。

○内野市長 ありがとうございます。

ほかにはありますか。

はい、どうぞ、一番後ろの方。できれば短目にまとめてくださいね。

○市民 今、中学校1年生の子どもがいる母親です。子どもは吹奏楽部に入っています。中学校で仮入部があって、今、本入部になりまして、毎日毎日部活へ行っていますが、すごく楽しくて楽しくて、部活が休みだと逆に家でぼうっとしてしまって何もやっていないです。朝も、大変だとは言っています。私も確かに弁当をつくるのは大変ですが、本人がすごく楽しんでやっているの、学校生活がとっても充実しているのだなと思います。

ただ、先生はやはり、土曜日曜もどちらか出勤で、どちらか部活お休みといった形でうまくされているので、発表会に間に合うのかなとちょっと心配なときもありますが、でも、本人がすごく楽しくやっているの、いいかなと思います。ただ、先生の負担はすごく多いので、2人顧問とか、あと外部の顧問の方が入ってくださると、少しは楽になるのではないかなと思います。

○内野市長 吹奏楽部は、私も中学校、高校と吹奏楽部だったのですが、去年退職した方に、吹奏楽部の顧問をやっていただけないかと、退職しても部活動をみていただく先生を

残そうという形で今やっているのですね。

だから、そういった先生の意欲ある人は、退職してもやれるという先生があるとフォローできる。だけど、意外と保護者からすると、あの顧問は嫌だとかいう話も現実にあるのですね。

ほかには、どうぞ。

○市民 2つあるのですが、この調査結果に基づいて、今いろいろな話が進んでいるのですが、最初に見たときに、サンプリングの数がすごく少ないなと感じました。そして海老名中学校と海老名小学校の生徒数は概算で何人なのですか。概算で結構です。

○内野市長 海老名小学校は800人ぐらいです。

○市民 いや、全体、海老名市内全体では何人ですか。

○伊藤教育長 小学校が7000人で中学校が3500人、合わせて1万1000人です。

○市民 相当な数の生徒がいるわけですよね。それで先ほどの調査の対象は、中学校、小学校から2校選んでいます。選んだ各学校から3年生と6年生を選んで、そこから2人。その全体のサンプリングの数というのはほんの少しじゃないかと思うのですが、そのサンプリングのデータに基づいていろいろ議論することが、果たして実態を反映しているのだろうかという気がするのですが、私は統計学の専門でもないのですが、そういうことをやっておられる職員の方とか先生方は大勢おられると思うのですが、私の疑問について答えていただけるとありがたいです。

○教育部次長 確かにサンプル数としては、子どもたちが8名ということで非常に少ないことはわかっております。全国学力・学習状況調査がありますが、その中にも生活実態調査というものをやっています、これは全国調査ですが、それについては相当数なサンプル数はあります。

今回は一例ということで、その8名の生活実態を輪切りにして、それを1つのテーマとさせていただくというふうに思っていますので、これが全てだということではないと思っています。以上です。

○市民 これだけの人が集まって、これだけの時間議論しているのに、元となるデータがどれだけ実態を反映しているのか、私はそれが少し心配なのですよね。文部省がどう言っているかどうかはわからないけれども、私は、調査をする専門の先生方とか職員の方は、これではおかしいだろうということに思わないのかなという気がしました。

○内野市長 すみません、ここはタウンミーティングではありません。皆さんの意見を聞

く場所で、今日はあえて傍聴者の方に聞いているだけであって、ここは総合教育会議という、教育委員と私の意見交換の場なのです。

そして、さきほど言ったとおり、サンプリングの問題ではなくて、傾向を今初めて浮き彫りにしているだけです。その傾向に基づいて、先ほど言ったとおり、調査が必要な場合は調査をして、いわゆる指針を出すという話になりますから、今は、ここが今日結論を出す場所ではないということだけは明確にしておきたいと思っています。

○市民 それはわかりましたが、内部の会議で、傍聴者は何も意見を言う必要がないのだったら、聞く必要はないと思うのですよね。

○内野市長 そうではなくて、だから、ある面ではこうやって意見をお聞きしているわけですよ。だから、事務局の資料に基づいて、もっとサンプリングをとれといったような形でお話をしていただければ、そうですねという話になるのです。

○市民 いや、そういう意見なのです。

○内野市長 これは相対となって、こちらが今やっていることを、そんなの不十分じゃない、あなた方をやっているのという話ではありません。ですから、それは市のタウンミーティングと全く違いますし、この会議の趣旨をご理解お願いを申し上げたい。

この会議は私が議長になって、教育委員会の総合教育会議の大綱をつくって、その中で現場の問題を抽出しながら、よりよい学校づくりをやっていききたいというものです。今日は上星小学校で集まって、こういう機会ですから、何かこういったことに対してありますかという意見を述べていただきたいという話です。

○市民 それに対しての私の質問が、こういう質問だということです。

○内野市長 わかりました。

○伊藤教育長 では、私から今の質問に対して、実を言うと、これは、調査としてサンプリングをして、何らかのデータというのは、私ども教育委員会は児童生徒、教員の生活の傾向を知りたいと思いました。

この1週間の調査は、各家庭に調査ですと出したら、とても大変なことなのです。例えば1000件でも、子どもたちが、3年生の子、6年生の子が毎日つけるわけです。それから先生方にもお願いしたわけです。

少なくともこれは大変な作業ですので、私どもはデータの数で正確なものというよりも、やっていただいて、その中から1つの傾向が見えた段階で、その傾向をもとに、子どもたちの生活や先生たちの今の時間の使い方はいかなものかということをお話し合おうと

思っサンプリグしたものです。本当に多ければ多いほど正しいのはおっしゃるとおりですが、今話したいことはそういう意図でサンプリグとした次第でございます。以上でございます。

○市民 要するに、今回のものは予備調査みたいなものですね。

それから、もう1点質問ですが、全然的外れかもしれませんが、海老名市内では、教育の問題に関係するかどうかと思うのですが、いじめという問題は全く起きていないのですか、全くないのですか。

○内野市長 ありますか。

○教育支援担当課長 いじめがないということはないです。ただ、今はいじめを学校のほ
うできちんと認知をして、それに基づいてきちんと指導していきましょうという形になっ
ていますので、いじめという捉え方が従来の捉え方と大分、法律ができてから変わってお
ります。

小さなからかいだとか、トラブルというのも、きちんとその相手の子どもが苦痛という
か、嫌な思いをしたものについては、いじめとして捉えて、きちんと指導していきましょ
うというふうになっていますので、まず認知しましょうということになっていますので、
ないということはありません。

○市民 わかりました。私もいじめが全くないなどということは、調査をする気がないか
らだと思うのですが、いじめがあるときちんと認識されているということで、安心しまし
た。ありがとうございます。以上です。

○内野市長 よろしいですか、ほかにはいいですか。この部活の関係とか、先生と、その
ことにしていただきたいと思います。多岐にわたると、教育ミーティングをやっているわ
けではなくて、この辺は勘違いしないようにお願いします。

○市民 発言の機会をいただきましてありがとうございます。部活動についてですが、
我々保護者からの要望として、今、多様な社会がだんだん広がっていく中で、単体の学校
の部活ありきではなくて、子どもたちに内発的動機から楽しんで部活動をさせるという観
点から、選択をさせていただきたいなという思いがあるのですね。学校として、ここは物
すごく大会で優勝するために頑張ろうという学校もあれば、楽しく緩くやろうという、そ
れぞれ価値観が認められるべきだと思うのですが、その子ども自体が、その学校が決めた
ものに縛られてしまうというのはどうなのかなというところがあります。隣の学校が例え
ば緩くやっているのであれば、私は緩くやりたいから、そちらのほうに参加したい。きつ

くやりたい、俺は優勝したいからそこでやるのだと、そういうある程度の選択肢的なものを用意していただけると、見えない問題とかいうものはある程度なくなったりするのではないのかなということがありまして、保護者側としてちょっと意見を発信させていただきます。

○内野市長 意見として十分わかります。

ほかには、いいですか。

○市民 ちょっとよろしいですか。

○内野市長 では、短くしてください。

○市民 すみません。過去に、中学校で子どもが、憧れた部活でいじめられて、相談を受けて、夫婦でいろいろ聞いてやった経験があります。たまたまいい先生がいて、憧れて行っていた、その部活は残念ながら諦めて、陸上へ行った経緯がありまして、そこで大分活躍できるようになったのですが、子どもたちのことを考えると、たまたま次に挫折するところを救ってくれた先生がいればいいのだけれども、私の家族の経験でいくと、友達関係がうまくいかなかったというものでした。部活のことを言ってしまうと、ばれてしまうから言わないのだけれども、要するに連帯責任だということで、僕の時代みたいに総勢に手を挙げたのですね。女性なのですが、女の子なのだけれども、それで自分の憧れていた部活や、将来の目指した部活がなくなってしまって、方向転換せざるを得ない。

ただ、本人も、よいアドバイスがあったので、自分の長所を生かして、インターハイの候補という形で、そこまで頑張ってくれたのだけれども、友達のことをよく聞いていると、そういう挫折をしている子どもたちがいたということがありましたので、今現実には、部活の先生、またはそれに対応する外からの先生に対して、現状、日常、問題はないのかどうか、その辺の対処を、今だと少し違うと思うのですが、教えてほしいなと思います。以上です。

○内野市長 ありがとうございました。

○伊藤教育長 部活の部分、教育課程外の教育活動ですから、体罰等は絶対にいけないということがあると思います。だから、先ほど私が言ったように、部活動をやることは子どもたち、熱心でいいのですが、そこからうまくいかなかった人たちにどのようにするかということはすごく大事なことで、全体の中でやっていると、全体がそこでうまく通り過ぎることはあるのですが、そうでない子どもたちも結構いるので、その子たちが悪いとかいいとかではなくて、やはり部活にやって3年間続けることが1つの意義なのだけれども、

そういう中で、うまくいかなくても、それは学校という教育活動の中で全て何かフォローするような、そういう体制は絶対に必要だなとは思っています。

そして、先生たちの外部指導者には、中体連が外部指導者の方々を集めて、教員は一応学級経営とかで子どもたちとかかわりをつくります。でも、その中でもううまくいかないことはあります。でも、外部指導者にもそういう面での指導はしています。

○内野市長 それでは、教育委員の皆さん、この部活動等で、ほかにはございませんか。そろそろこの辺で締めていきたいと思います。

○松樹委員 そうですね。部活動ですが、私も子どもがおりますので、保護者でございます。部活動の子どもたちが受ける影響というものは絶大なものがあるのではないかなと思うのです。すばらしい教育活動なのだと思うのですが、先ほど教育長もおっしゃっていたように、大前提の認識として、部活動は生徒の自主的、自発的活動ですということなのだと思うのです。これは文科省がそういう指針というか立ち位置です。

ただ、現状とあわせると、部活動というものが教育課程の一環みたいな形で捉えられている方が多いのではないかなという気がするのですが、少し切り離して考えるべきではないかなと私は思うのです。今の体制としてはですね。私は教育課程に入れたほうがよいという立場なのですが、そんな中で、やはりいろいろな問題が出てきているかと思うのですが、それはシステムの問題もあると思います。

文科省がこれを教育課程に入れない理由は、私が勝手に考えるのですが、こんなところで発言したら怒られてしまうかもしれないのですが、入れると先生が過労死してしまいますし、そのほか給与の問題だとか、いろいろな問題が出てくるのだと思うのですが、先ほど選択をすると保護者の方がおっしゃっていただきましたが、いろいろな柔軟な考えがあってよいのではないかなと思います。

別に学校側が全て決めているわけではないし、生徒の自主的な活動ですので、保護者も交えた中で活動内容を決めればよいのだと私は思うのです。朝練をやめようとかですね。先生がやめる、やめないと決めるのではなくて、私は、保護者と子どもたちでみんなで話し合っ、では、この部活動はどうしていくかと決めればよいのだと思うのです。

そんな中で、例えば顧問になる先生、例えば野球部の顧問になるというか、多分、頼むと言われるのだと思うのですが、私も問題だと思うことは、野球経験のない先生がその部活動を教えなければならないという言い方もちょっとおかしいのですが、そういう場面も多々あるのではないかなと思うのです。

統計でちらっと見て、それが合っているどうか分からないですが、半数の顧問の先生が、そのスポーツ、これは運動部に関してですが、経験が全くないといった中で顧問にしているということです。それは人的な関係だとか、また人事異動の関係だとかいうこともありますので、いろいろな面を含めた中で問題点を抽出して、中体連というものがありますので、海老名で動かせるかどうかという話もあるのですが、海老名バージョンで私は構わないと思うのですが、しっかりと、子どもも先生も、先ほどゆとりの話をされておりましたが、本当にゆとりある、部活が楽しいといった中での、両者にとってよい関係と言ったら少し違うのかもしれないですが、そんな中で部活動ができたらいいなとは思っております。以上でございます。

○伊藤教育長 1点だけ私のほうから、先ほど小学校の遊びの話がありました。今、ここ上星小学校でもあそびっ子はやっていますし、どこの13校でもあそびっ子、またはまなびっ子というものをやっているのです。その子どもたちは自由の選択かもしれないですが、地域の方々が来て子どもたちを見守っている中で遊ぶ、またはいろいろな団体さん、青健連や青指連も子どもたちの活動を見守っていますので、そういう中で、今、テレビゲームがはやっているから、それでおしまいということではなくて、我々大人たちがどこかで子どもたちの今の遊びを変えないといけないなとは思っているんですよ。

そのためには、絶対に地域の方々の力が必要だと思いますので、やはり子どもは人とみんなが集まって、ぶつかったり、声出して叫んだりしながら、かかわって遊びの中でいろんなことを覚えるのですよ。そのことがなくて大人になると、本当に大変なことがこの後に起こりますので、今あそびっ子とか学校応援団とか、いろいろなところで地域の方にかかわっていただいています。そういう中で子どもたちの遊びもみんな、大人がかかわってつくっていくような、子どもたちは家に閉じこもろうとするけれども、その遊びだけは、それを引っ張り出してでも、各学校単位でやっていければ、それは結果として最後に子どもたちに還元されるなと思っています。そういう意味で今いろいろなところで地域の方に活動していただいていますので、子どもたちの生活時間の中の遊び、特に小学生の遊びをみんなで見直したいと思っていますので、その辺は今やっただいただいている方々にご苦労いただいています。継続してよろしく願いいたします。

○内野市長 それでは、児童の問題は、意外と小学校の関係については、学童保育も今充実しておりますし、今教育長が言った、いろいろな放課後の関係、予算総額で2億円以上使っています。昔は1億円使っていませんでしたが、倍以上の予算を使って充実させてい

ます。

そういう中で、子どもたちがどういう生活をするかは、今後の小学校の部分でいろいろ議論が必要だと思います。細かい部分で先ほど遊びの問題がありましたから、それを今後どうやっていくかは、もう一步踏み込んだ調査が必要だと思いますので、教育委員会のほうで少し議論をしていただきたいと思います。

それから中学校の関係は、どうしても部活動となると、運動部が中心となるという話もありますが、やはり運動部における教職員の負担、文化部もそうですが、これを今後どう軽減しながら、よりよい部活動をしていくか、これは本当に予算上も出てくると思いますが、教職員の先生方の協力も絶対に必要だと思います。

それから先ほど言った部活動の練習の関係とか内容の関係については、もう少し踏み込んだ調査をして、中体連との関係とか、それから先ほど言った朝練が本当に必要なのか、必要ではないのか、そういった部分も、生徒がどう考えているかという点だと思います。

小学校のアンケートより、中学生のアンケートは自分で答えますから、そういった部分で中学生は、逆に言えば、卒業したらもう3年後には選挙権を持つ年代になりますから、やはりそれぞれの意見を、中学生としての意見も聞きたいと思っていますので、その部分を踏まえて、今後、秋に向けて1回調査を少し、今回は何人かでしたけれども、大まかにやっている子どもたちを対象にしながら、先生もどうなのかという形で、少し踏み込んだ調査をお願いしたいと思っています。

以上、そういった形で、今回を踏まえながら、秋、10月に向けて、結果を少し、もう1度、こういう形でなくてもよいですから、ご意見とかアンケート調査を教育委員会で確認しながら踏み込んでやっていただきたいと思います。

委員さん、それでよろしいですか。はい、では、そういった形でよろしく願います。

○内野市長 次に協議事項（2）保護者の経済的負担のあり方についてを議題といたします。海老名市は部活動費を取っていませんよね。

○教育支援課長 原則として、部活動費を学校で取るということはしていないのですが、保護者の方同士で、例えば飲み物代を持っていくことが多いから、集めたりということはされているところは若干あります。

○内野市長 それでは第2番目の、これはいつも話題になっていますが、保護者負担軽減

について事務局から説明をお願いしたいと思います。

○教育部次長 それでは(2)保護者の経済的負担のあり方についてでございます。先ほど大綱についてご説明をしましたが、こちらに抜粋を掲載させていただいております。その中に「安全安心な環境と新たな学校施設への取組み」が提示されていまして、その2点目に、こちら下線を引いていますが、「義務教育に係る公費負担のあり方の検討」ということを位置づけています。具体的には「小学校1年生、中学校1年生の教材費の無料化などを実施し、保護者の負担軽減を図ります。」また「義務教育に係る保護者負担の軽減と学校徴収金についての検討を進めます。」という記述でございます。

そういった中で、現在本市が行っている、これは教育、それから市長部局の福祉にもなりますが、ざっくりまとめてございます。

まず資料中、①は昨年度から実施いたしました。小学校1年生、それから中学校1年生といった新入生の児童・生徒に係る教材費、例えば小学生であると漢字ドリルなど、さまざまなものが配付されていますが、あれはそれぞれのご家庭に負担していただいているものですが、それらを昨年度から全額公費負担をしてございます。

それから、②は生活困窮世帯への就学援助です。

③が奨学金、これは海老名市内のお住まいの高校生が対象になりますが、現在40名程度のお子さん方に奨学金を給付させていただいてございます。

また④は野外教育活動ということで、小学生については活動費、それから給食費全てということで全額公費負担をさせていただいてございます。また、中学生については食費のみを除く活動費全般について公費負担を行ってございます。

次に、先ほど市長からもお話がありましたが、⑤部活動費の充実ということで、他市等では部活動費を集金していると伺っていますが、保護者の負担の軽減ということで、部活動費に公費を投入して負担の軽減を図っているというところでございます。

⑥は今年度、先ほど学童の關係に2億円ほど支出しているということで市長からございましたが、特に生活困窮世帯に対する学童保育料、上限としては1万2000円が上限ですが、その範囲であれば基本的には学童保育のかかった費用を全額公費負担するというような制度をこの6月からスタートしているという状況です。

また市長部局、市では、①子ども医療費の助成ということで、中学校3年生まで全額公費負担をしております。近隣市でも小学校6年生ぐらいまではそういうところも多いですが、県内でも事例としてはまだまだ少ない状況です。

それから、これは幼稚園になりますが、就園奨励費・就園援助費ということで、これは市単で幼稚園へ通っているお子さんたちへの援助。それから乳児への紙おむつの支給。保育料、これも国の保育料には規定がございますが、例えば生活保護世帯でも保育料は取るものなのですが、本市ではその部分を公費負担にしてゼロ額とするとか、全体の保育料を下げております。さまざまなことを実施しているという状況で、これは一例でございます。

そういった中、本日ご議論いただきたいと思っておりますのが、最後に出ましたが、保護者の経済的負担のあり方についてご議論をいただければと思います。以上です。

○内野市長 切りがないのですが、全部無料にすればオーケーなのですが、ある予算でやっています。上星小学校、この地域は、もうちょっと行くと座間ですが、座間の医療費の助成は、小学校3年までワンコイン500円です。入院、通院もそうですが、海老名市は全部中学校まで無料にしていますが、その総予算は現実に5億円を費やしています。だから、中学校を切れば1億数千万円浮きます。だけれども、そういった部分では、そのめり張りを、では、ここも残して、あそこも残して、全部やりたいのですが、全部やっていったらこれは切りがありません。だから、どこを焦点とするかという、医療費の中学校無料を行ってまいりました。そういった中では、小学校1年、中学校1年はお金がかかる時期ですから、教材費を無料にしていこうという形で進んでいます。

皆さんもご承知のとおり、海老名市の小中学校は、もうエアコン設置を全て数年前に終わっています。これは市の単独で全てやりました。しかしながら、皆さん高校のお子さんがいらっしゃると思うのですが、公立高校にはエアコンは入っていません。私立は絶対入っています、これは当然あります。

ところが、海老名高校は2年前か3年前にエアコンを入れました。なぜ入れたかというと、PTA会費でリースを5年間払っています。だから、保護者の負担でそれぞれに将来にもわたって負担を取っている。公立高校はそういう話に進み始めました。そして、これはおかしいのではないかと私たちが言っても、これは県の問題ですから、保護者負担でエアコンを入れ始めました。

ところが、そういった部分ではいろいろありますので、今後この問題について教育委員さんの皆さん、何かありますか。

大学の問題があるのですが、これについては、海老名市は今、総合戦略で大学生に、まあ、若い人たちが住んでほしいというまちにしたいということで、大学の入学金、授業料

が高いという形で、どうやっていくかと考えています。

そして、藤沢はつい最近、給付型で来年度から大学を始めようという話が始まりましたので、これはやはり教育委員会の中で議論をしてほしいと思います。高校まではある程度できているのですが、大学となると、そうは言っていませんので、この辺については、今日議論を出して、ある程度皆さんのその部分で、来年度予算が、10月ごろにある程度方向づけますので、教育委員会としての方向性をそこで決めていただきたいと思います。

何か今の関係で、ご意見があればどうぞ。

○岡部委員 市長がおっしゃるように、財源は限られているわけですから、どれを実施していくかということはいろいろあると思うのですが、今やっているものは、私は評価をしております。ただ、今子どもの貧困と言うのですかね、その貧困の連鎖を防ごうというようなことがいろいろ言われて、行政だけではなくて委員会の力も使ってということが時々資料の掲示等で見ます。

そういう中で、私は、低所得の方への援助を充実してほしいなと思っています。就学援助等がありますが、それで全て拾えているのかどうか、その辺の実態がはっきりわかりませんが、そして経済的な理由で勉強に支障があるということは防いでいきたいということは思っています。

大変初歩的な質問で恐縮ですが、就学援助の財源は全部市費なのかどうかを事務局にお尋ねしたい。それから、国や県の補助のあるメニューは、こういうものの中でほかにはもうないのかな、もしあったら使えればいいのにと少し思いました。以上です。

○内野市長 就学援助費の国県の割合について、どうぞ。

○就学支援課長 全額市で負担しております。要保護については県もやっておりますが、就学援助については市で負担しております。

○内野市長 もう全て市費で、市の負担です。まあ、貧困ということが今出ましたが、まあ、救えているか救えていないかについては、教育長、どうですか。

○伊藤教育長 救えているかどうかは、我々の調査では、いろいろな調査の方法はあるのですが、それは本当に担任の目から見て、確認したところ、昨年度秋に小中学校で食事がちゃんととれていないとか、洋服が毎日同じような洋服で少しぼろぼろになっている子が51名いました。その子たちがそのときに勉強ができていないかということ、そういうこともなくて、学校の中では、教員たちは、どんな子たちが来ても同じように接しますし、だから、その子たちも学校に来ると安心して給食を食べて、みんなと一緒に遊ぶ中では、自分

の困窮感を忘れられると言ったら言葉は変ですが、そういう生活ができるように、学校もすごく配慮してやっていると思います。

ただ、学校から戻ったときに、やはり子どもの貧困の影響は子どもに出るけれども、親の貧困ですので、私のほうで非常に困っているのは、ある程度の援助費が出ても、それを子どもに使わないで、ネグレクト的な、自分たちでやるべき親の役割を放棄して、お金はいただいても自分のものに使うという感覚のもので子どもたちが不利益を生じている分には、非常に支援というか、本当にその子たち、その家庭へのサポートが必要かなと思っています。

ただ、お金そのものが本当になくて生活できないというところについては、今の時点では考えていないですが、もちろんそれは充実していきたいと思っていますが、ひっばくして考えていないです。ただ、そういうケースに対して十分に対応して、その貧困の連鎖を断ち切るような、例えば家庭訪問相談員の派遣とか、学校とかほかの機関のチームの連携でその家庭に対応するとか、そういうことは個別にどんどんやっていきたいと思っています。以上です。

○内野市長 よろしいですか。

今回は8月21日に予定しておりますので、保護者負担について具体的な教育委員さんの提案があれば、そこでお聞きしたいと思います。よろしいですか。そういった形で事務局も、来年度予算にかかわる問題ですから、ある程度10月まではこの総合教育会議がまとめていきたいと思っています。

しかしながら、できるものは早くやりたいと思いますから、そういった面では、ちょうど8月21日にありますが、具体的なそれぞれの案がありましたら、こういったことをやったほうがよいとか、そういった具体意見がありましたらお願いしたい。

それで事務局にお願いしたいことは、藤沢市が給付型の大学生における貸し付けを始めようとしております。近隣で全国的に大学生に対する、どういう形で自治体あるいは教育委員会が支援をしているか、その調査だけはやっておいていただきたい、短い時間ではありますが、いいですか。では、それをお願いします。

○内野市長 次に、協議事項(3)その他(今泉中学校区での身近な話題について)を議題とします。本日は今泉中学校、上星小学校、今泉小学校の保護者の方々、地域の皆様方が参加しておりますので、身近な話題等がありましたら、先に教育委員の皆さんからお願い

したいと思います。

○松樹委員 すみません、地元です。この今泉中学区は、上星小学校、今泉中学校、今泉小学校とかがあって、すぐ上星小学校を中心として捉えますと、隣に幼稚園で、保育園があって、老人ホームがあって、また大きな秋葉山という山もあったり、自然豊かでございますし、その下にはお寺もございますし、私のお寺なのですが、コンパクトシティーと言いますか、本当に夜は静かなまちです。だからといって何か問題がないかといえ、それぞれ微々の問題はあるかと思うのですが、先ほど教育長がおっしゃっていたあそびっ子クラブですか、遊び場ですね、放課後の遊び場なのですが、私の頃は秋葉山などで遊んだのですが、最近ああいう山で遊んでいる子どもは本当に少ないのですが、私はどんどん遊んでもらって構わないと思うのですが、ここの地域だけではないと思うのですが、そういう遊び場をつくってあげるということも大人の責任なのではないかなと私は思います。

ゲームをやっている子どもたちに注意して、ということもよいのですが、では、その子どもたちはどこへ行くのですかという話ですので、しっかりと思い切り遊んでこいと言えるような、秋葉山などがありますので、ぜひ地域の方も、子どもがいたら、秋葉山へ行って遊んでこいなどと言っていただいても、差し当たっての何か大きな問題というものはないかと思うのですが、そのようによい地域だなと少しPRをさせていただければと思います。

○内野市長 ほかの委員さん、よろしいですか。

校長先生はどうですか、本日は学区の校長先生は3名いらっしゃるのですか。

○上星小学校長 今、松樹委員が言われたように、自分は上星小学校にいて、本当にこの地域は環境的に恵まれているので、特に大きな問題とかは自分は感じていないのですが、確かに遊びの面で、よく学校、先生方はパトロールなどをして、そこのすぐ近くのコミセンに寄るのですが、コミセンに来てくれることはよいのだけれども、結局そこで、中でみんなでゲームをやったり、コミセンのコンセントのところで電気をつないでということ、注意を受けることがあって、グラウンドが非常に広いところで、本校は、ありんこクラブというあそびっ子さんがありまして、その子たちはよく遊んでいるのですが、そうではない子たちが大勢遊びに来るかという、そうでもないですね。遊んでいる子たちはいるけれども、やはりゲームなどをしているというところは、確かに僕は問題かなと思っております。子どもたちが、学校に集まってくるということは本当は理想なのでしょうけれど

ども、もっと地域地域に、秋葉山ではないですが、子どもたちが楽しんで遊べるような場があるといいなと思います。高架下公園というところがあるのですが、そこは結構子どもたちが遊んでいるのですよ。ああいう場所をもっとつくってもらえるといいなということに僕は感じています。

○**今泉中学校長** よろしく願いいたします。今、遊び場の件が出ていたのですが、小学生だと、そういうところも本当に必要なと感じています。中学生だと、大体夕方6時ぐらいまで部活をやって、その後、帰るときに自転車に乗って、塾に行くのかどうか分からないのですが、ららぽーとのほうに結構みんな自転車で行く子が多いかなというふうな感じに思っています。あと、個人的に習い事をしていたり、そういう家庭が多いのかなと思います。

今泉中に赴任して、今泉小の小学生が井戸坂を登下校するわけですが、踏切があって、道も狭いし、車も通るし、結構危険なのに、事故とかは全然聞いていないので、ああ、この辺は今までのご家庭のしつけとか、あと学校での指導が行き届いているのかなと思います。また、踏切を渡るということは、私は中学生の生徒を見ていると、何か結構危険なこともやってしまう年ごろなのかな、踏切が下りてきても急いで行かなきゃみたいなの、そんなこともあるのかなと実は思っていたのですが、踏切が何カ所もある、そういうところも、危険なので、注意しなければいけないのかなとは思っています。

さらに、今泉中学区ですと、下今泉のほうも大きな通りがあり、ららぽーとのほうも車がどんどん入ってきているので、やはり交通面で、通学路等に気をつけていかなければいけないなと思います。

今日もPTAの会合があったのですが、通学路のことで市にいろいろ依頼するのだけでも、なかなか答えが遅いという話が出ていまして、歩道の件など、そういうところも整備していただけると小学生も助かるのではないかなと思います。特に今泉中学校の周りです。上のほうは、上星小のほうはもうきちんと区画がされているのかなと思うのですが、全部の学区はわかっていない、学校の敷地のことしかわからないので、的外れかもしれませんが、そのように感じています。

以上です。

○**今泉小学校長** よろしく願いします。今泉小学校は、今、今泉中学校長の話にあったのですが、井戸坂のところとか、非常に細くて交通量が多いということで危険なのですが、地域の方たち、自治会を初めいろいろな世間の方たちが、いろいろと見回りだとか、

助けていただいているので、事故はございません。大変ありがたく思っています。

今泉小は、やはり一番、このところ西口の開発に伴って、交通量が増えるだとか、登下校の子どもたちの安全はどうなのかということをしごく気にしてきました。おかげさまで特に交通量が増えたわけでもなくて、大きな事故ありませんでした。

ただ、今の学区の隣の敷地にマンションが建つだとか、今後もその近辺の人たちの社宅が取り壊されてマンションが建つとか、大きな工事がたくさん入るのですね。ですので、そういう工事が行われることは仕方ないと思いますが、安全に十分注意して子どもたちが学校へ来られるようにしてほしいなという願いはいつも思っております。以上です。

○内野市長 本日、皆さんいらっしゃいますが、今中学区の関係で何か要望等がありましたら、どうぞ。

○市民（自治会関係者） 自治会の仕事をしております。昨年か一昨年に学校応援団というものがつくられたそうですが、地域とのかかわり方という点で、私は大変によいことだなと思っております。せっかくこういう地域で教育会議をやられるなら、その報告をできたら聞きたいと思っております。校長先生がお三方いらっしゃるのので、どなたでも結構です。その学校応援団がどういう実態で、どういう成果、または評価、問題点、こういったことがありましたらお聞かせいただきたい。

○内野市長 ほかにございますか。よろしいですか。

それでは順番に行きましょうか。秋葉山の関係、どこでも、今言われたのは、ゲームの関係、はコミセンでもビナレッジでもほとんどどこでもそうなのですよ。だけど、集まっている場所が公共施設なら安心なのですね。ビナレッジは物すごいです、もう1階は小学生ばかりであふれている。もう大人の人がどこかへ行けという感じで、場所取りで大人と子どもの場所取りが行われている。

だから、私は安全ならいいと思うのですね。だから、もうゲームの問題というのは、これはもう時代背景の、ファミコンが出てからの話ですが、公共施設でゲームを使わせないよということになると、子どもたちはどこかへ行ってしまうので、受け皿としては、今後いいのではないかなと私は思っています。

そして、ゲームがだめなら家庭で買わなければいいと思いますが、買っているのは家庭です。それで、行政に、ゲームを使わせない場所をやれとか、学校で時間を決めろといっても、それは愚の骨頂です。親が買ったのだから、親がちゃんと決めるというのが私の考え方です。これは保護者には不満があるかもしれないが、私はそういう考え方だから、買

ったのは保護者ですから、買った責任上、保護者が決めるべきだと思っています。

それを学校や自治体でどうにかしてくれというのは、そんなことまでは市長としてできません。これははっきり申し上げておきたい。何でも行政、何でも学校の先生はできません。それぞれの役割があるだろうと思っています。

秋葉山について、史跡の問題は大きな問題で、もっと使う形で整備したらよいかという話を、今、私は教育委員会に投げかけています。

そして、秋葉山もですが、国分寺史跡がそうなのです。国分寺史跡、国分のあの土地だけで35億円使っています。ところが、もう散歩だけしかできない。その部分でよいのか悪いのかと、いろいろあるのです。周りにはトイレもあるし、そういった活用計画をつくってほしいと。文化庁との協議が必要なのですが、そういった話をやっています。

それから、井戸坂の件はわかっています。私どもも道路関係部署で一生懸命考えていますし、排水の部分がやっと終わり始めていますので、今後、踏切の拡幅ではなくて、あの坂自体がすごく急激なので、その部分の拡幅を考えるかというあたりでやっています。

あとは、今泉中近辺については、今進めようとしていることは、今泉中の北側、橋場酒造の北側から道路をそのまま、セブンイレブンから直通に道路を引っ張ろうという計画です。その道路が今の新しい道路に接続して、座間のバスがそのまま来るような形で計画をつくっております。

ところが、用地買収等が今難航しているので、少し時間がかかりますが、また、上今泉そば屋さん竹葉庵のところの坂で、横が開発をしようとしています。井上コンクリートのところがアパートを建てようとしていますので、あそこは玉砂利で危ないということで、あそこを少し整備して、歩道整備も兼ねてやろうという計画を今つくっています。

しかしながら、道路は、用地の交渉がうまくいかないとできないので、時間が少しかかると思いますが、しっかりとした計画で、通学路についても、遅いという話も出ていますが、教育委員会と道路所管部署ではいろいろ協議をして結果を出しています。スピード感を持ってやれということは指示をしておきますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

学校応援団の結果についてお願いします。

○上星小学校長 では、学校応援団について出ましたので、上星小の例をお伝えしたいと思います。数年前からサマースクールというものが、夏休みに子どもたちのいろいろな体験をさせるために、学校に集まってきて活動をするという、それが上星小学校では昨年か

らえびなっ子スクールと名前を変えています。学校応援団の委員長さんは、自治会長の方を委員長として、あとコーディネーターの方を交えて、今は上星小のそういう集まってきた応援団の方々に、では、どんなものを子どもたちに提供しようとか、いろいろ考えて、例えば今ここにいられる松樹委員のお寺に行こうというような1つの講座みたいなものがあったりということで、地域の人たちに学校に来てもらっていろいろなことを教えてもらうということが非常に広まりつつあります。

僕も先ほど伊藤教育長が言ったように、学校というものに対して地域の方々がもっと来て、子どもたちと直に話したり、遊んであげたり、子どもがグラウンドで遊んでいるところをただ見ているだけでもよいと思うし、どこかの場所で将棋などをやっていて、そこに子どもたちが顔を出して、ああ、おもしろいから一緒にやろうとか、学校がだんだんそういうふうになってくるといいなと思っていまして、そのためにこの学校応援団というものが、本当に地域の方々がずっとつくっていられるので、これから、よいのではないかなと思います。課題はというと、やはりそういう集まる場所が、確かに学校、上星小などは校舎がいっぱいあって、余っているところがありそうだななどと思うかもしれませんが、実際、そういう場としてうまく、いつでも皆さんが来たり、応援団の人が来たりという場所がないのですよね。そういう場所が本当にあって、みんながもっと来やすくなるようになるといいなあと考えております。

先日、学校で体力テストと言って、1年生から6年生が8種目ほどいろいろな競技を、自分の体力をはかるためにやるのですが、そのときに保護者の方々に呼びかけて、いっぱい来てくれたのですが、それ以外に応援団のほうから体育指導員の方々とか、応援団の方が呼びかけて、先生の方とかが来てくれたりということで、応援団の役割というものはこれから学校にとっては大変、非常にありがたいし、そういう中で子どもたちとの触れ合いを増やしていけるといいなと考えております。

確かに少しアピールはまだ足りないところがあると思うので、上星小応援団としてもっとアピールして、皆さんが、敷居が高くないような感じで集まって来られるようになると、本当の意味での応援団になってくるのではないかと、それが何年かたつとコミュニティスクールという形に発展していくのかなと思っております。以上です。

○内野市長 よろしいですか。

はい、どうぞ。

○市民 今のお話ですと、サマースクールレベルだけれども、今の先生方は大変だなと

思うことは、やはり英語、英会話を教えなければいけないとか、パソコンを教えなければいけないとか、それから理科の実験などもだんだんやる先生が不得手になってくると、こんな話を聞くのですが、この地域は幸いそういった海外経験者というのはごろごろいるわけですね。英会話なんかは別に全然苦にしないと、パソコンも仕事で使っていると、こういう人たちを先生の助手として使っていくと言うのでしょうか。

サマースクールとか、そのレベルではなくて、正規のそういう授業のお手伝いとして活用するということを検討する余地はないのかなと思ってお聞きしたのですが、まだまだこれからのようですね。ありがとうございました。

○伊藤教育長 今の学校応援団ということでもなくて、私どもの宣伝があまりうまくなくて申しわけないのですが、海老名市では学習支援ボランティアという方を常に募集していますので、そういう中で、学校のほうでそういう、先生たちでなくて、自分の技能を生かせるような形で、そこに登録していただければ、学校のほうは要望があったときにそこへ行っていただいてということであります。

ただ、近くの学校でということだと、お住まいのところということもありますので、登録したからすぐに、常にそういう場所があるとは限らないですが、ぜひよろしければ、またご紹介しますので、海老名市の学習支援ボランティアという形で登録いただけるとありがたいなと思います。それはまたどこかの形で広報して、市民の皆さんによりわかるようにしていきたいと思います。そういう努力をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

○内野市長 他にございませんか。ないようですので、以上で、本日の日程は、すべて終了いたしましたので、司会を教育部長に移します。

○教育部長 ありがとうございました。それでは、事務連絡をさせていただきます。先ほど市長からもお話がありましてとおり、次回の総合教育会議は8月21日日曜日午前10時から東柏ケ谷小学校で開催を予定しております。皆様ぜひご参加いただければと思います。

それでは、以上をもちまして平成28年度第1回海老名市総合教育会議を閉会といたします。長時間にわたりありがとうございました。お疲れさまでした。